

## 子ども特定健診の早期実現を～ハードルを乗り越えて～

ぬま健司の一般質問・田辺市長の第1答弁（2023年9月8日）

### 香川県三木町の小4、中1対象の血液検査結果の活用を紹介しましたが 学校検診による重症化リスクの高い児童生徒対策にとどまる答弁

#### 引き続き子ども特定健診の実現を提言していきます

社会変化や子どもの健康状態を考慮すると、小児期生活習慣病予防対策を実行する必要性が高まっている。私たちは7月に香川県の小中学生対象健診事業を視察し、8月には報告会を開催し医療・教育関係者等と情報を共有した。ハードルを乗り越え、子ども特定健診を早期に実現するため市長の見解を問う。

① 子どもの健康課題をどう認識しているか。  
小児期生活習慣病予防の来年度の計画は。

近年、食生活の多様化やスマートフォン等デジタル機器の普及などによる生活環境の変化により、本市においても子どもの生活習慣の乱れや、それに伴う**肥満や視力の低下などが健康課題**であると認識している。こうした背景を踏まえ、現在、学校の養護教諭や栄養教諭、市の保健師などが協力して「子ども版健康チャレンジ10か条」を策定しているところであり、**来年度はこの10か条を基盤にした子どもたちの健康づくり**を家庭や学校と連携し取り組んでいきたいと考えている。

●血液検査により子どもの健康課題を具体的に把握する事例を紹介。田辺市長は実態を把握しようという姿勢を示さず。子どもの健康課題に対する危機感が弱く、新たな取り組みの必要さを認識できていない。今やっていることの正当化にこだわりすぎ。

② 健康データに基づく保健指導・健康教育への転換が必要と思うがどうか。

保健指導については、乳幼児期は、1歳6か月児健康診査や3歳児健康診査のデータに基づき実施している。また、4か月児健康診査のデータに基づき6か月児相談なども実施しており、こうして得られた肥満ややせ傾向等のデータも活用しながら保健指導や栄養指導を行っている。

学校では、**学校健診結果の全体傾向はつかんでいるが、特に他の市町と比較して顕著な傾向は見当たらない**と認識している。この学校健診データに基づき、養護教諭が保護者に対し早期受診を促し、発育測定において**急激な体重の増加があった児童に対しては生活習慣の見直し**などを現在も行っている。令和3年度からは中学校と連携を図りながら、**学校心臓検診での生活習慣病精密検査対象者に対して、市の保健師や管理栄養士が健康相談や食事指導を実施**する取組を行っている。また、健康教育については、小中学校では、ヘルスアップぷらん等を活用し、保健指導・健康教育を推進するための**健康に関する指導計画を作成**している。さらに、花見小学校では食生活改善推進会による味噌づくりや減塩パネルの校内展示、古賀西小学校や小野小学校での骨密度測定、古賀竟成館高校でのインボディ測定など学校での健康教育の支援や学校と連携した健康チャレンジ10か条の普及啓発に努めている。現在も保健指導や健康教育を行うにあたっては、データを活用しているが、今後も引き続き、DXの推進などを進めていくとともに、学校と連携しながら、**重症化リスクの高い児童生徒へのアプローチに力を入れて取り組んでいきたい**と考えている。

●血液検査結果に基づく一人一人の特性を理解させる健康指導を紹介。田辺市長は、学校検診による重症化リスクの高い児童生徒への対策にとどまる答弁。一人一人のデータがないので対策の打ちようもないというのが古賀市の実態。

③ 子どもの血液検査の意義をどう評価するか。  
採血導入はハードルが高いと思うか。

血液検査については、個人の健康状態を知る上で手段の一つであり意義があるとは考えているが、本市としては、**学校保健安全法に基づく健診の機会を生かし、重症化リスクの高い、学校心臓検診での生活習慣病精密検査対象者に対する、市の保健師や管理栄養士が健康相談や食事指導を実施する取組が有効**であると考えている。子どもの健康や生活習慣は家庭の健康意識や生活スタイルに大きく影響を受けることから、家族も含めた健康づくりの推進に引き続き取り組んでいく。

●三木町の血液検査結果や実績を紹介。田辺市長は学校検診が有効という認識にとどまった。

④ 塩分摂取に関する取組をどう強化するか。

小中学校では、生活習慣病予防の観点から、**保健と家庭科などの授業**を中心に、他の教科や道徳、特別活動、学校行事なども関連させて、計画的に健康教育の推進に努めていくとともに、**養護教諭からの保健室だより**を活用して、保護者への啓発にも努めている。また、適正な塩分摂取については、家族単位での取組が重要であると考え、**調味料の計量や栄養成分表示の確認などを奨励**し、情報発信や啓発、出前講座等での健康講話、地域での**味噌汁等の塩分測定や尿中塩分量測定などの測定機会の提供**など、食生活改善推進員と連携し、食育の推進を強化している。

適正な塩分摂取の取組についても、現在作成中の「子ども版健康チャレンジ10か条」の中に盛り込むこととしているので、今後も家庭や学校と連携し、取組を推進したいと考えている。

●三木町の尿検査による一日塩分摂取推定量結果を紹介。田辺市長は、一般的啓発にとどまった。すでに全児童生徒の採尿をしているので塩分測定を追加することについては今後さらに提言していきたい。

⑤ 子ども特定健診に係る予算は将来への投資と思うがどうか。

子どもの健康は家庭や学校生活で育まれるもので、本市としては乳幼児期からの保護者に対して家族単位での健康づくりの意識付けやハイリスク者へのアプローチ、子ども版健康チャレンジ10か条を活用した健康教育など、**まずは現在行っている事業の充実に努めることが将来への投資**につながると認識している。今後も学校などの関係機関と連携を図りながら基本的な生活習慣の確立をめざす。

●古賀市の小4、中1を対象とする血液検査、尿検査をした場合の経費は約456万円という試算を提示。田辺市長は現在やっていることにこだわるあまり議論が深まらない。18歳までの子ども医療費無償化に新たに8千万円かけるなら、456万円で予防にも力を入れることを引き続き提言する意義はある。

